

第2回 埋設処分業務・評価委員会 議事録（案）

1. 日時 平成22年2月25日（木）15:00～17:00

2. 場所 日本原子力研究開発機構 東京事務所 第2会議室
(新生銀行本店ビル12階)

3. 出席者（敬称略）

（評価委員）大西（委員長）、片桐、佐藤、辰巳、田辺
（機構）大澤、原、寺沢、木原、中井、吉岡、山口

4. 議題

- （1）挨拶
- （2）第1回埋設処分業務・評価委員会 議事録案確認
- （3）平成21年度 埋設処分業務の実施状況について
- （4）平成22年度 埋設処分業務に関する計画（案）について
- （5）その他

5. 配布資料

- 資料2-1 第1回埋設処分業務・評価委員会議事録（案）
- 資料2-2 平成21年度 埋設処分業務の実施状況について
- 資料2-3 平成22年度 埋設処分業務に関する計画（案）について

6. 議事概要

（1）挨拶

大澤埋設事業推進センター長（以下「センター長」）より挨拶。

（2）第1回埋設処分業務・評価委員会 議事録確認

資料2-1に基づき、事務局より前回議事録案について説明。

委員全員の承認が得られたので、正式に議事録として公開する。

（3）平成21年度 埋設処分業務の実施状況について

資料2-2に基づき、事務局より平成21年度の埋設処分業務の実施状況について説明。主な質疑応答は以下の通り。

【委員】 発生者対象の説明会は、年度内に終わったのか。どのような形態で参加募集を行ったのか。一般の方も参加出来たのか。参加者は何に関心を寄せたのか。

【機構】 1月に説明会を実施した。説明会では、事業概要や今後発生者にとって必要となる事項等を具体的に説明した。来年度も説明会を開催する予定である。



この説明会は発生者を対象としているので、H20 年度に実施した廃棄物量調査の対象者に、個別に説明会の案内をお送りし、併せて HP でも告知した。

参加者にとって最も大きな関心事は、自分達が処分に向けて今後何をすれば良いのか、ということである。今年の夏頃を目途に、機構で処分に必要となる廃棄物データの整理等に関する技術的な資料を公開する予定。

【委員】 「埋設処分業務の運営において留意する事項」について、計画と実施状況の記載内容が対応するように整理した方が良いのではないかな。

【機構】 ご指摘の点、整理する。

【委員】 これから立地を進めるのは大変だと思うが、良い案は見つかったか。

【機構】 立地基準・立地手順については、引き続き検討中である。外部有識者の意見を取り入れて基準・手順の検討過程から透明性を確保していきたいと思っている。この委員会でも検討内容をご報告するので、その際にはご意見をいただきたい。

【委員】 処分費用や作業等を合理化する努力が重要だが、ピットとトレンチの違いを明確にした上で、極力どちらかの埋設方法に統一するなどの合理化を図ることにより発生者や国民の理解を得るよう努めるべきではないかな。

【機構】 それぞれの埋設方法によって濃度上限値等の安全基準が定められており、周辺住民の安全性と埋設施設の経済性を考慮して埋設設備のバリエーションを使い分けている。



(4) 平成 22 年度の埋設処分業務に関する計画（案）について

資料 2-3 に基づき、事務局より平成 22 年度の埋設処分業務に関する計画（案）について説明。主な質疑応答は以下の通り。

【委員】 輸送、処理や処分単価等について発生者の意見を聴く際は、平成 21 年度に実施した説明会のような形式行うのか？発生者にとっては、処分単価が安い方が良いと思うので、その点についての交渉は難しくなるのではないかな。

【機構】 平成 22 年度も説明会を実施する。発生者の意見を聴く方法については検討が必要だが、こちらから発生者の事業所等に出向いて、相談や情報交換等を行うことを考えている。

処分単価の設定方法については、整理した後にこの場でご報告することを考えている。50 年の事業なので、既支払分については遡及しないこととして、リスクを見込んで単価の平準化を図るようにしていくことが重要と考えている。

【委員】 総費用の見直しによって処分単価が変わるなら、総費用の見直しは定期的に行うのか？

【機構】 5 年に 1 回、中期目標期間に合わせて物量の確認を行い、総費用も見直す。

見直しに伴って単価は変動するが、リスクを見込んでその変動幅を少なくしていきたい。また、ピット処分・トレンチ処分共通で必要となる費用についても、その按分比率の公正性をご説明できるようにしていきたい。

【委員】 大規模施設を1ヶ所に設置するのか、小規模施設を複数の地点に設置するのか、どの考え方で立地活動を行うのか。

【機構】 立地活動は容易ではないこと、また広大な用地が必要となるため、基本的には1ヶ所の選定を考えている。

【委員】 立地手順等について、外部有識者の意見を聴取することで透明性と公正をどのように保つのか。

【機構】 外部有識者には積極的に意見を申し述べていただくことを考えている。立地基準、立地手順については、結果だけでなく決定の過程を示して透明性・公正性の確保に繋げていきたい。また、独法が実施する業務の情報は原則、公開の対象となっている。

【委員】 決定の過程を公開すればそれで公正かという、一般的にはそう判断されるわけではなく、決定の過程自体を公正な方法となるよう留意する必要がある。

【機構】 外部有識者からの意見聴取の方法などを現在検討中なので、次回の委員会までに改めて報告できるようにしたい。

【委員】 議事録の公開だけでは、この委員会の議論の様子等、良い雰囲気が十分伝わらない。記録文書としての議事録以外の方法で、国民の信頼を得るという観点から、委員の発言と議論、それが消化されていく様子等を伝えられる方法を検討してほしい。

また、HPを作るのは当たり前のことであり、それだけで情報発信を行っているとは言えない。短期間でのアクセス数が多いので、なぜ多いのか等、アクセス解析を行うことで意味が出てくるのではないかな。広報素材の作成についても、有識者の力を借りるなどして、教育の場での連携等を含めて検討してほしい。

【機構】 先生方のご意見を伺いながら、限られた予算の中で効率的・効果的な広報活動をしていきたい。広報素材については、最終的に立地地域の方々に理解してもらえるものが必要と考えている。いただいたご意見については広報の本質的な問題であり、引き続き勉強していく。

【委員】 概念設計の実施の項目で、「自然環境及び社会環境に関する評価パラメータ」とあるが、社会環境をどのような形で盛り込むのか。「社会環境」という言葉では“一般社会”を連想するので、別の表現の方が良いのではないかな。

【機構】 ここで記載した「社会環境」とは安全評価に着目したもので、例えば埋施設周辺での農耕の状態、人口分布等を示す。「社会環境」の表現



については、具体的な事例を示すなど、工夫する。

【委員長】 年度計画の確認については、委員長に一任していただくことでよいか(委員各位の異議はなし)。

(5)その他（事務連絡）

【機構】

次回委員会については、後日、委員の予定を確認して調整する。

以上